

# クリニックレター 2015.3月

〒663-8113 西宮市甲子園口 2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

## 漢方保険診療の危機

### －漢方生薬の逆ザヤ現象－

今月は、漢方薬の「逆ザヤ」問題についてお話しします。

患者様が服用される漢方薬には、「煎じ薬」と「エキス剤」がありますが、いずれも、「生薬」、すなわち、さまざまな薬効をもつ植物の根や茎などをその原料としています。このうち、「煎じ薬」は、数種類ときには十数種類の生薬を医師が患者様の症状や体質に合わせて処方し、その処方箋にもとづいて調剤されたお薬を患者様がご自分で煎じて飲んでいただくもので、漢方専門医ならではの薬といえます。

さて、患者様が薬局でお薬を受け取られるときの価格は、厚生労働省が定めた「薬価」によって決まります。「生薬」は、いくつかの生薬卸業者が、生産者から買い付けて製品化しているのですが、実はここ数年、生薬の卸業者から薬局への納入価格がさまざまな理由で高騰し、「薬価」を上回ってしまう「逆ザヤ」現象が深刻な問題になっています。

生薬納入価格の高騰には次のような理由があります。

- 1) 生薬はそのほとんどが中国からの輸入に頼っていますが、近年、中国の経済成長に伴い生産業者の人件費が跳ね上がり、その分が輸出価格に転嫁された。
- 2) また、中国国内での生薬の消費量が増え、その分、輸出に使われる生薬の量が減ったため価格が上昇した。
- 3) 世界的な温暖化により、中国国土の砂漠化が進み、生薬の耕作面積が減少した。

これらの理由によって生薬の輸入価格が高騰したにもかかわらず、医療費削減の政府方針により「薬価」が依然として低く抑えられたままであることが、逆ザヤ現象につながっているのです。(裏面に続く)



生薬の卸価格 >> 薬価

↓  
健康保険を使つての生薬処方  
ができなくなる

それでは、「逆ザヤ」現象がおこると、どうなるのでしょうか。

調剤薬局では処方箋の通りに調剤すると、その薬局は赤字になります、つまり、売値より買値のようが高いということになりますので、生薬の調剤を受けつけてくれなくなります。その結果、事実上、漢方薬の保険診療が出来なくなってしまうのです。

最近になって、奈良県や北海道の一部で国産の生薬栽培を活性化しようという試みがなされたり、また、海外の生産地を中国から他の国(ラオスなど)へ移す動きも出ていますが、量的にもコスト的にも問題を解決するには至っていません。

今、まず必要なことは、生薬の実勢価格に応じた薬価の設定がなされることなのですが、度重なる業界からの要請にもかかわらず、厚労省の動きは芳しくありません。今のままですと、近い将来、煎じ薬だけでなく、エキス剤についても、材料高騰のため保険診療が出来なくなる可能性もあります。

**この文章を読んでいただいた患者様にお願いします！**

**このような実情を周りの方に知ってもらってください。**

**また、マスコミ、政治家などにお知り合いの方がおられましたら、是非この問題をとりあげていただけられるようにお伝えください。業界の言葉に耳を貸さないお役所も、患者様の声が高くなれば動かざるを得ないことになります。**

西本院長が講師を務めている「国際薬膳食育学会」の理事長で薬膳研究家の板倉啓子先生が考案された「温福茶」や「眼福茶」は、寒い季節や花粉症の時期の日頃の飲み物としてお勧めです。また、「和漢膳カレー」は、保存料や添加物を使わず、油脂も従来品の70%カットで、大棗、ナルコユリなどの滋養作用のある漢方薬が含まれたカレーパウダーです。西本院長イチ押しのお食材です。



### お車で来院の方へお願い

クリニック横の道路に路上駐車されますと、歩行者の方にご迷惑となり、また、大変危険です。クリニックの駐車場または、最寄のコインパーキングをご利用ください。

クリニックレターのバックナンバーをお読みにになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。